

## はじめに

石油等の化石資源に由来する燃料の燃焼に伴うCO<sub>2</sub>（いわゆるエネルギー起源CO<sub>2</sub>）の排出を伴わない、再生可能なバイオマスを原料とするエコ燃料により、化石由来燃料を代替することは、温暖化対策上効果的であり世界各国で取り組が進んでいる。

本推進会議は、2005年12月に環境省地球環境局に設置され、2006年5月には、自動車用燃料へのバイオエタノール混合ガソリン等の普及に向けた具体的なロードマップ、普及方策を報告書として取りまとめたところである。

その後、環境省等の支援するバイオエタノールに係る地域実証等の取組が進展し、エタノール混合ガソリンが販売されるなど、前回の報告書策定時から状況は大きく変化してきている。

技術面からみても、食料との競合を回避するため、セルロース系等の第2世代の技術開発が進むなど、持続可能性等エコ燃料生産を推進する観点からの取組が進んできている。

このような状況を踏まえ、前回報告書において示した目標年次に達していない状況ではあるが、現時点における、補完的な検討を行うこととしたものである。

具体的には、前回報告書策定以降の内外における取組の進展や、エコ燃料を取り巻く環境の変化等を踏まえ、エコ燃料の具体的な導入と技術の方向性を中心に、2008年7月から検討を開始した。

検討に当たっては、より専門的な検討を行うため、本会議のもとに普及ワーキンググループと技術ワーキンググループを設置して検討することとした。

本報告は、中長期的に効果的な温暖化対策が進展していくよう、様々な立場の取組が一つの方向性をもってなされるための指標となるものと考えている。

なお、本会議における検討にあたっては、特に必要と思われる部分についてのみ検討したものであり、本補遺に記載された事項以外については、状況の変化に合わせ適宜検討が行われる旨を付記しておく。